

II. 海外経済

		4月	5月
世界経済		<p>世界の景気は、弱い回復が続いているものの、底堅さもみられる。 先行きについては、当面、弱い回復が続くものの、次第に底堅さを増すことが期待される。ただし、欧州政府債務危機が引き続き景気の下振れリスクとなっている。また、アメリカにおける財政問題等にも留意する必要がある。</p>	(変更なし)
アメリカ		<p>アメリカでは、景気は緩やかな回復傾向となっている。 先行きについては、緩やかな回復傾向で推移すると見込まれる。ただし、財政問題への対応による影響や雇用情勢等の推移に留意する必要がある。</p>	<p>アメリカでは、景気は緩やかな回復傾向となっている。 先行きについては、緩やかな回復傾向で推移すると見込まれる。ただし、財政問題への対応による影響等に留意する必要がある。</p>
アジア地域	中国	<p>中国では、景気の拡大テンポはやや持ち直している。 先行きについては、依然不確実性が残るものの、各種政策効果もあり、緩やかな拡大傾向となることが見込まれる。ただし、輸出や不動産価格の動向に留意する必要がある。</p>	<p>中国では、景気の拡大テンポは依然緩やかなものとなっている。 先行きについては、緩やかな拡大傾向が続くと見込まれる。ただし、不動産価格や輸出の動向に留意する必要がある。</p>
	韓国、台湾	<p>韓国では、景気は足踏み状態となっている。台湾では、景気は持ち直している。 先行きについては、韓国では、当面、足踏み状態が続くものの、次第に持ち直していくことが期待される。台湾では、持ち直しの動きが続くと見込まれる。また、輸出の動向に留意する必要がある。</p>	<p>韓国、台湾では、景気は足踏み状態となっている。 先行きについては、当面、足踏み状態が続くものの、次第に持ち直していくことが期待される。また、輸出の動向に留意する必要がある。</p>
	インド	<p>インドでは、景気は緩やかに減速している。 先行きについては、当面、低めの成長となることが見込まれる。また、物価上昇によるリスクに留意する必要がある。</p>	(変更なし)
ヨーロッパ地域		<p>ヨーロッパ地域では、景気は弱い動きとなっている。 先行きについては、当面、弱い動きとなるものの、次第に底入れに向かうことが期待される。ただし、一部の国々における財政の先行きに対する不安が再燃した場合、金融面への影響等を通じて景気が低迷するリスクがある。また、各国の財政緊縮による影響や、高い失業率が継続すること等に留意する必要がある。</p>	<p>ヨーロッパ地域では、景気は一部に下げ止まりの兆しもみられるが、総じて弱い動きとなっている。ドイツでは、足踏み状態となっているものの、一部に底堅さもみられる。 先行きについては、当面、弱い動きとなるものの、次第に底入れに向かうことが期待される。ただし、一部の国々における財政の先行きに対する不安が再燃した場合、金融面への影響等を通じて景気が低迷するリスクがある。また、各国の財政緊縮による影響や、高い失業率が継続すること等に留意する必要がある。</p>